

# そらこめ通信

No.27 2012.10発行

日頃より弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。  
9月15日に稲刈りを開始して以来、比較的穏やかな日が続いてくれたおかげでコンバインによる稲刈り作業は順調に進み、9月28日に無事終了しました。今年は食味もさることながら、収量も例年並み以上の手ごたえがあるようです。弊社では木村社長自らコンバインを操り稲刈り作業を進めているわけですが、コンバインのタンクに稲がたまるとの間隔が例年に比べて短いのでは…とのこと。出荷受け入れ施設による正確な計量がなされていない状況での収穫担当者の云わば「勘」の域を出ない話ですが、彼らの「勘」はあなどれず、事実とそう大きな狂いはないのかな…と思っています。事実なら、ありがたい話。不稔稲の割合が夏場の好天続きで例年より少ないのかも知れません。そういえば、今年は北海道への台風の到来がありません。9月中旬以降の低気圧の影響で、北海道内の数か所で集中豪雨や竜巻を伴う突風が吹いた事例がありますが、ここ北空知に限って言えば比較的穏やかな秋と言っても良いようです。ただ、集中豪雨や竜巻は一点集中型(ピンポイント)で起こるのが最近の傾向。同じ空知管内の岩見沢市では、9月11日夜から降り続いた雨で翌12日朝には市内の一部地域が冠水してしまいました。岩見沢市は、先の冬も豪雪による被害を受けたばかり。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。  
話は変わりますが、今年は夏からコメの値段が高値をつけたまま下がる気配がありません。先の大震災の影響など、要因は多々あるかと思いますが、日本人にとってコメは主食。旨いコメを「消費者と生産者が共に納得できる適度な価格」で手に入れられる仕組みを作ることが大事なのです。国内のコメの絶対量は足りるはずで、マネーゲームの材料にだけはしてはいけません。



稲刈り開始(9月15日)



この日はグループ会社のパンフレット作成の為、撮影スタッフが同行(9月15日)



荷台の籾を乾燥機に投入するトラック



育苗ハウスの空きを利用した「ダリア」と「シネンシス」の栽培(9月15日撮影)



無事、収穫期を迎えられたことに感謝する恒例行事「地鎮祭」が地域の人達総出で行われました。(9月8日)



稲刈り最盛期を迎えた圃場(左の写真)と、黙々とコンバインを操る木村社長(9月22日撮影)



地鎮祭での懇親会の様子



昨年から手掛けていた転作田を水田に戻す工事がようやく完成(9月12日撮影)



コンバインからトラックに籾を積み込む 刈取り最中の圃場の土(9月22日) 稲穂に止まった「トンボ」(9月22日)  
刈取り最中の圃場の土が細かくひび割れています。「ひび割れ」は泥炭でない証拠。旨いコメができる田んぼの条件は「南向きで秋にひび割れる田んぼ」というのが常識です。こういう土で作られたコメは間違いなく旨いはず。ぜひご賞味あれ!!  
これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。



稲刈り直前の水田のようす(左の写真)と新品種「ゆきがすみ」、「ゆきさやか」の圃場(9月12日小雨の中で撮影)

インターネットで美味しいお米♪

(株)空知こめ工房 ホームページ  
<http://www.sorachi-kome.jp/>  
ブログ「生産日誌」更新中です